

小倉正恒 実業家、政治家。住友系重化学工業の基礎をつくり、政界では、財界を代表して経済新体制を推進した。

おぐらまさつね

初の民間工場1875 = 旧金沢藩士小倉正路の長男として金沢に生まれる。

明治14年政変1881 = 6歳 :

秩父事件・・・1884 = **9歳** :

帝国憲法発布1889 = 14歳 :

少時より漢籍に親しみ、また武道・参禅に熱心で、東洋的風格があった。

郡司千島探検1893 = **18歳** :

日清戦争始・1894 = 19歳 :

八幡製鉄始・1897 = 22歳 : 東京大学英法科卒。_内務省に入り、
_土木監督署事務官・山口県参事官などを歴任したが、

Bushidou・・・1899 = 24歳 : 近代化のため(鈴木馬左也・河上謹一ら)人材を集めていた住友に入る。住友倉庫・住友銀行などを経て、
ピア/国産化・1900 = 25歳 : イギリスに留学、

教科書疑獄・1902 = **27歳** : 帰国し、本店・神戸支店を経て、

日露戦争終・1905 = 30歳 :

_本店副支配人となり、

_別子製銅所の煙害問題の処理や新居浜の肥料製造所の建設、鴻之舞金山の買収、開坑などにあたる。

大逆事件判決1911 = **36歳** :

明治天皇没・1912 = 37歳 :

大正政変・・・1913 = 38歳 : _支配人、

本格政党内閣1918 = 43歳 : 理事、

大暴落・・・1920 = **45歳** :

原敬首相暗殺1921 = 46歳 : *常務理事、

_大正期より昭和初期にかけて住友本店の住友合資への改組、コンツェルン化に伴って、林業・炭鉱・ガラス・電線・電気機械・電力・信託・保険などの創設買収に参画。住友財閥大成期の指導者としての役割のほか、政財界において財閥を代表する地位にあって、住友の伊庭貞剛・鈴木馬左也以来の東洋的、国士的風格をもって事に処し、

世界恐慌・・・1929 = **54歳** :

海軍軍縮条約1930 = 55歳 : _総理事となる。

満州事変・・・1931 = 56歳 :

_不況対策にあたるかたわら、アルミ事業の創設、化学・電機・伸銅鋼管・機械部門の拡張にあたり、住友系重化学工業の基礎をつくる。

国際連盟脱退1933 = 58歳 : *貴族院議員に勅選されると、
_内閣審議会委員をはじめ政界との接触が濃くなり、近衛文磨・平沼騏一郎・吉田茂らと交流し、

日中戦争始・1937 = 62歳 :

健保+総動員 1938 = **63歳** :

大政翼賛会・1940 = 65歳 : *第2次近衛内閣に国務相として入閣、懸案の経済新体制問題のまとめ役として、産業側の自主性を残しつつこれを発足させ、

日米開戦・・・1941 = 66歳 : _第3次近衛内閣では蔵相に転じたが、総辞職。

・・・・・・1942 = 67歳 : _以後2年間戦時金融金庫総裁・東亜経済懇談会会長・大東亜建設審議会委員として戦時下の日本経済を推進し、以後国民政府(南京)全国経済委員会最高顧問などを歴任して中国人の敬愛をうけ、

敗戦・・・1945 = 70歳 : *敗戦後、公職追放となる。

新憲法施行・1947 = **72歳** :

独立回復・・・1951 = 76歳 :

国連加盟・・・1956 = **81歳** :

1911病始・1961 = 86歳 : _病没した。